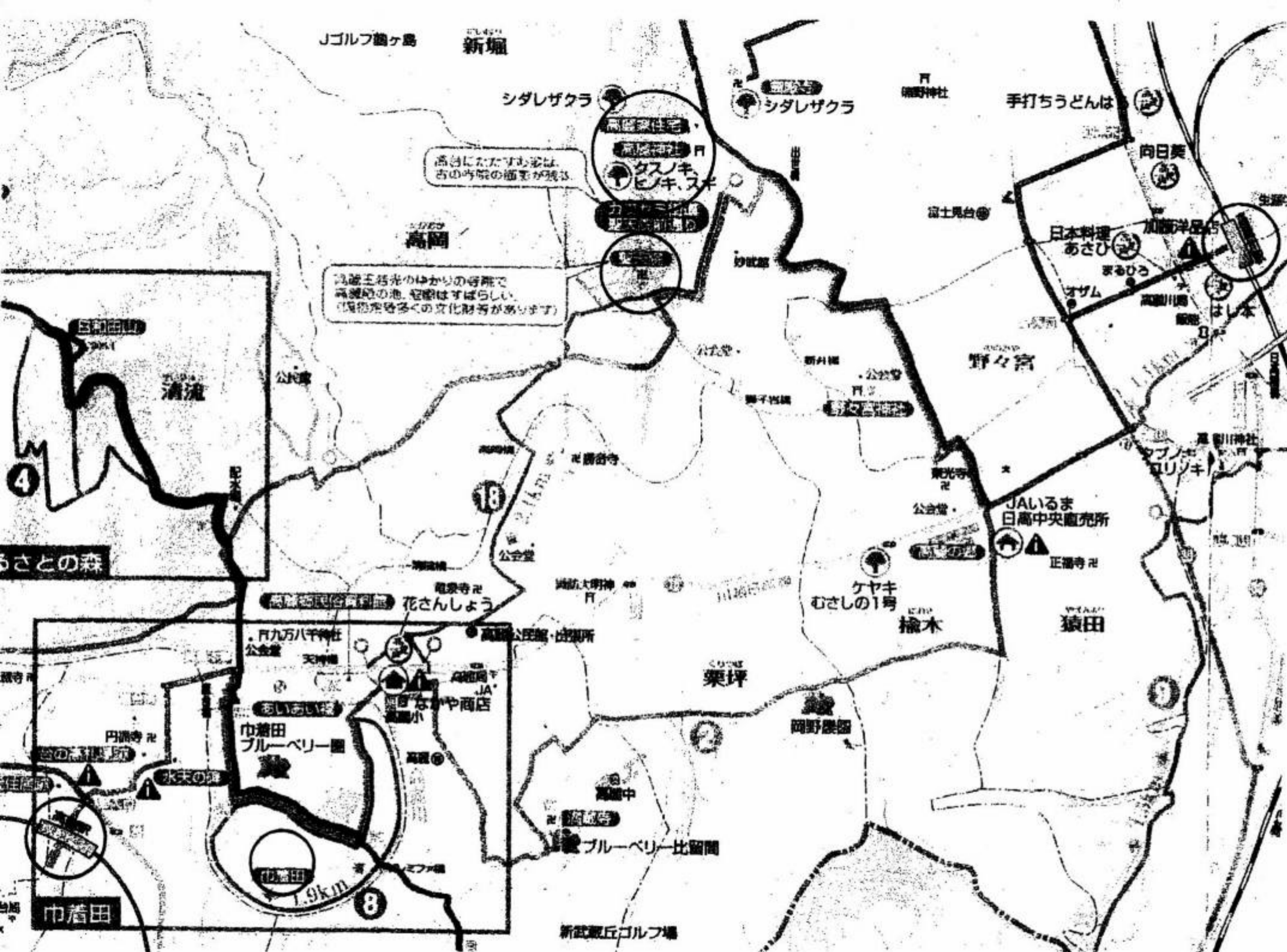


平成二三年九月二四日(土)

第四一八回 史跡めぐり 資料

彼岸花咲く 渡来人ゆかりの地

越谷市郷土研究会



越谷市郷土研究会第418回史跡めぐりのご案内

## 彼岸花咲く、渡来人ゆかりの地

彼岸花咲く巾着田、高麗(コマ)王若光の墓のある聖天院、高麗人が祀っていた神が祭神と言われる高麗神社(宮司は59代・高麗氏)・高麗家住宅などを巡る古代ロマンの旅です。

日時 平成23年9月24日(土)

集合 8時 JR南越谷駅

コース 南越谷駅<sup>8:16</sup>＝新秋津駅…秋津駅＝高麗駅<sup>9:50</sup>(西武)…巾着田…聖天院…高麗神社・高麗家住宅…高麗川駅(JR)＝川越駅＝大宮駅＝春日部駅<sup>15:21</sup>＝越谷駅

帰着予定～5時・歩行～7km・昼食持参

雨天中止(問合せ090-4139-2740 975-9139宮川)

参加費 3,000円(交通費・資料代など)

NPO 法人越谷市郷土研究会

◎日高市の地名の由来は―

高麗川村と高麗村とが合併する際に、両村の「高」という文字に、日和田山の「日」をかぶせて名付けたという説が有力とか。

◎天下大將軍、地下女將軍とは―

高麗駅を降りたとたんに目に入りま  
すね。

そして、聖天院（シヨウテンイン）と高麗（コマ）神社の入口にもあります。

これは將軍標（チャングンピョ）とか、長柱（チャンスン）といわれるものです。

人面を彫った神木で、普通、男女一対で村はずれに立ち、村の境界を示し、村の守護神でもあります。2000年以上の歴史があります。二つの種類があり、一つは守護者やお化けを描いたもの、もう一つは大衆の自画像のイメージです。天下大將軍は地上の偉大な神、地下女將軍は地下世界の偉大な神です。

◎高麗と高句麗

「高麗」と「高句麗」は違います。社殿入口に掲げられた額には「高麗」に二字の間に小さく「句」に文字があります。これは明治末に韓国人趙重応が書いたもの。

「高句麗」（コウクリ）は中国東北部の松花江を根拠とした東扶余（フヨ）族から分かれた卒本扶余族がBC1世紀ころに立てた国。太祖王（1〜2世紀）のころから国家体制を整え、やがて百濟、新羅とあわせて、日本でいえば飛鳥・奈良の時代のころ、三国鼎立時代を築きました。

古代日本では「高句麗」のことを「コマ」といい、朝鮮全体を指す言葉としても使われていました。

「高麗」（コウライ）は李朝の前、10世紀から始まり約500年続いた、そのころの焼物のことを「高麗青磁」と言ったりする時代のことです。

◎聖天さまとは―

象の頭をした神ガネーシヤはインドで広く親しまれ、人気のある大衆神で

す。密教とともに日本に渡来し、聖天、欽喜天、大聖欽喜天といわれます。日本では極めて秘教的な色彩がつよく、象頭の男女神が抱き合った双神像であるので、秘仏とされることが多いのです。有名なのは奈良・生駒山の宝山寺、浅草の待乳山聖天、埼玉では妻沼の聖天山があります。

◎高句麗人の移住

「続日本紀」の記事「靈龜2年に高麗人を武蔵国に移住させ高麗郡を置いた」とは別に、こんな話があります。

神奈川県大磯に高来（コウライ）神社があつて、そこには江戸時代から明治にかけて高麗寺村があつた。その北に位置する東京都狹江（コマエ）市には渡来系の人の色濃い亀塚古墳もある。そしてまた、その北の埼玉県に高麗がある。渡来人は大磯に上陸し、北へ北へたどって、この高麗の地へたどり着いたのではないかと。

## 台の水天の碑

台円福寺前

高麗川の流れは、清流である。しかし荒れ狂う大洪水も永い年月にはあつたであらう。

人々は川の平穏と筏のりの安全を祈り天を仰いで手を合せたに違いない。

天保十年（一八三九）台村の人たちは、円福寺の入口に水天の碑を建立した。

この年に、五日五夜の大念仏の行事があつたと伝えられている。この水天のお日待は十一月二十四日に行なわれたのである。

この水天の文字と同じ掛幅が円福寺に残されているというが誰れの筆になつたものだらうか。



## 巾着田

### 高麗本郷地内

日和田山から眺めると巾着のように見えるので、古くから属称として此の名が付けられた。

土地の人は川原田と云う。この他に市原田、内野、新田、八ヶ下が含まれている。面積約十六万㎡である。

古文書によれば、慶長二年（一五九二）高麗本郷全域にわたり検地がおこなわれ、市原田に十二名の耕作者の名が記されている。中世以前に耕地化されていたと推定される、また内野の北（上ノ原）の九万八千神社の脇に大久保石見守長安支配の陣屋が置かれている。後栗坪村に移った、なお高麗郡設置の頃ぐんが郡衙の置かれていた可能性も残されている。

高岡の周辺は水田は少ない。現在、巾着田と呼ばれているところは、その名のごとく一面の水田であるが、慶長2年の検地帳には、市原田と呼ばれている現在の巾着田の一部が載っているだけで、大半は水田とはなっていないことがわかる。巾着田の一部は水田として慶長2年の段階に開発されていたが、その他はそれ以降の開発によるものである。おそらく、市原田の開発も古代に遡るものではなく、慶長2年よりさほど遠い過去とは考えられない。

高麗氏が移住後、最初に開発したのは清流地区を中心とした谷津田であることは想像にかたくない。高岡寺院跡から一望できる清流の谷津田は、慶長2年の検地帳にはほとんどが記載されている。



高麗郡は当時のモデル行政地域

★高橋一夫氏（元・埼玉県立歴史と民俗の博物館館長）に  
きく

同氏は、いま、草加市にお住まいですが、以前、日高町における遺跡分布調査にたずさわられ、高岡廃寺の発掘調査も担当されたという「古代の高麗」を語るのに、最もふさわしい方です。

Q 日高には大寺、高岡、女影と三つも廃寺がありますか…

A 年代的には、女影、大寺、高岡の順になります。

女影廃寺は、常陸で一番古い寺院と推定される新治廃寺のものと同範の、いわゆる「格の高い」瓦を出土しています。七一六年の高麗郡設置に伴い、律令体制を整備する上での地方行政機構のモデルとして、郡家（郡の役所）などとワンセットで建てられた官寺（郡寺）ではないかと思えます。そのあとにできた浦和の大久保領家廃寺や坂戸の勝呂廃寺など郡寺クラスの寺の瓦に、この女影廃寺の影響がみられるのです。

次に大寺廃寺は高麗氏一族の氏寺的なものではなかったかと想像しています。平城京系の瓦が出土しており、

これは当時、中央の高官になっていた高麗福信との関係がうかがわせるものです。また、中世の瓦もでてくるので、武蔵七党の武士としても活躍した高麗氏が建立、崇敬した寺だと思ふのです。

高岡廃寺は三つの中では一番規模が小さいのです。最初は瓦ぶきにもなっていなかったかと思われるほか、塔のかわりに瓦塔がつかわれており、まつられている仏も金属製でなく塑像だったらしいのです。高麗氏系図にある聖雲が師の勝楽の遺志により建てたという寺伝に合致し、僧勝楽の菩提寺で聖天院の前身と推定されます。この寺の発掘は、埼玉県下の寺院跡の調査としては唯一、全体的規模で行なわれましたが、今はゴルフ場のコースの一部になっています。

Q 渡来人がこの地にやってきたのは、当時、辺境だったところを「開拓」させるための無理やりの移住だったという人もいますが…

A むしろ、渡来人優遇政策だと思います。東アジアの全体として、大きな動きのあった時代ですが、当時の政権はこの影響をプラスにうけとめて、渡来した人たちを使って律令制度確立の基礎づくりをした。この高麗でも郡を新設し、郡家や寺院など、周辺のモデルとなるワン

セットをつくった。そういう新しいモデル行政地域に、他からも視察者が勉強のためにおしかけたのではないでしょうか。

Q その他に、この高麗を歩くときのアドバイスはありますか。

A 奈良時代とはいえ、一般の人は竪穴住居などで生活していました。そこへ郡家とか寺院とか瓦ぶきの大きな建物と共に仏教や律令がやつてきたのです。人々は、その時、はじめて、「自然界以外の“色”」も、そういう建物の彩色をみて、意識したと思うのです。そんなことでも、どんなに大きなカルチュア・ショックだったか。そんなショックをうけた人たちが、今日のコースのあたりに千数百年まえ、実際に生き、生活していたということも、渡来文化と、それをもたらした人たちのことと同様に、お考えになりながら、歩かれたらと思います。

新編埼玉県史・通史編1 (62・3 埼玉県刊)

毛呂山町史 (50・1 毛呂山町刊)

日高町歴史散歩 (60・3 日高町教委刊)

埼玉の神社 入間 北埼玉 秩父 (61・4 埼玉県神社庁刊)

武蔵の古社 菱沼 勇 (47・3 有峰書店刊)

埼玉県古代寺院跡調査報告書 (57・3 埼玉県県民部県史編さん室刊)

高岡寺院跡発掘調査報告書 (53・3 高岡寺院跡発掘調査会刊)

古代東国物語 永岡 治 (61・10 角川書店刊)

古代武蔵を歩く 古谷源吾 (59・11刊)

埼玉歴史散歩 県西県北コース 埼玉県歴史教育者協議会編

(82・3 歴史散歩刊行会刊)

ふるさとの思い出写真集 明治 大正 昭和 日高 野々宮高成

(59・8 国書刊行会刊)

写真紀行埼玉の寺(Ⅲ) 写真 敏隆英三 文 秋山喜久夫

(57・4 埼玉新聞社刊)

朝鮮を知る事典 (86・3 平凡社刊)

大日本百科事典 (45・3 小学館刊)

高麗神社と高麗郷 高麗澄雄編 (62・12 高麗神社社務所刊)

高麗家住宅 (54・8 高麗神社社務所刊)

高麗山聖天院 (聖天院刊)

騎馬民族は王朝をたてなかつた 佐原 真 || 日本古代史① 日本人誕生

(86・4 集英社刊)

渡来系民族壬生吉志氏の北武蔵移住 金井塚良一 || 埼玉県史研究第3号

(54・2 埼玉県刊)

古代の高句麗と日本 金達寿ほか著 学生社 S63

韓国古代の歴史 洪淳昶著 吉川弘文館 H4

おもな騎馬民族とその活動地域



騎馬民族は王朝をたてなかつた。佐原真  
日本古代史の日本人誕生(86、4集英社刊)

民族・国名	主な領域・活動地域	活躍した年代
スキタイ	黒海北岸	前7～前3世紀
匈奴	モンゴル	前3～後3世紀
鮮卑	モンゴル～遼寧	前4～後6世紀
烏桓	内モンゴル	前2～後3世紀
拓跋	モンゴル～中国東北部	2～3世紀
突厥	北～中央アジア	6～8世紀
回鶻	モンゴル～トルキスタン	8～9世紀
契丹	モンゴル～中国北部	4～10世紀
蒙古	モンゴル	12～13世紀
高車	モンゴル	3～5世紀
吐蕃	チベット	7～9世紀
高句麗	中国東北部～朝鮮半島南部	前2～後5世紀
百濟	中国東北部～朝鮮半島北部	前1～後7世紀
新羅	中国東北部～沿海州	7～8世紀
高麗	中国東北部～朝鮮半島北部	7～10世紀
百濟	中国東北部～沿海州	10～13世紀



関係略年表

	年	事項
6世紀以前	37 BC-3	高句麗建国
	391	高句麗 広開土王即位
	427	高句麗 平壤へ王都を移す
	471	埼玉・稲荷山古墳の鉄剣銘 (辛亥の年)
	6世紀中頃	柏江市・亀塚古墳 538 仏教伝来 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">越谷 見田木造跡</span> 588 法興寺(飛鳥寺)着工
7世紀	618	唐興る
	666	若光渡来 (二位壬戌若光 一説編未定) 641 山田寺創建・埼玉・寺谷廢寺
	668 (天智天皇7)	高句麗が唐と新羅に滅される
	673 (天武天皇2)	若光渡来 (聖天院パンフレット)
8世紀	703 (大宝3)	若光 高麗王の姓を賜う
	707 (慶雲4)	元明女帝即位 741 (天平13) 聖武帝口分寺の詔
	708 (和銅元)	杖父にて銅を発見・高麗福信生王れる
	710 ( " 3)	平城京遷都 749 (天平勝宝) 聖武帝大仏を礼拝
	715 (靈龜元)	元正女帝即位 751 (天平勝宝3) 勝樂寺(聖天院)立つ
	716 ( " 3)	高麗郡をおく 755 (天平勝宝7) 天智官符に 出雲伊波比神社
	758 (天平宝字2)	新羅郡をおく 772 (宝龜3) " "
	779 (宝龜10)	高麗福信・高倉朝臣の姓を賜う
	784 (延暦3)	桓武帝 長岡京遷都
	794 (延暦13)	" 平安京遷都
9世紀以降	904 (延喜5)	延喜式編さんに着手
	939 (天慶2)	平将門 新皇を擁す
	1249 (建長元)	越谷・建長板碑
	1261 (文応2)	聖天院銅鐘
	1528 (大永8)	出雲伊波比神社再建

5世紀末、7世紀初、古墳群の時代

# 日高町高岡<sup>たか</sup>高岡<sup>おか</sup>廃寺

## 立地

高岡廃寺は入間郡日高町字清流小字ケツ坊主に所在し、西武秩父線高麗川駅の西方約2.5kmに位置している。寺院跡は東に延びる丘陵から南に突き出す支丘陵の南斜面に立地し、遺構は標高162mから170mの範囲に存在する。寺院跡からは高麗川の形成した景勝地巾着田で一望でき、高麗神社、聖天院は、廃寺が立地している丘陵の東端にあり、尾根上を歩いて20分ほどの距離にある。

(高橋 一夫)

高岡周辺は地形からして縄文時代の遺跡が多く、国指定の高麗村石器時代住居跡(縄文時代中期)がある。しかし、分布調査は進んでいないが、弥生時代以降の遺跡は現段階ではほとんど確認されていない。寺院跡の周辺は現在でも水田面積は少なく、弥生時代の遺跡がほとんど存在しないこともうなづける。さらに、古墳も一基もなく、また、その時代の集落跡も確認されていない。

高麗郡が置かれた以降の遺跡としてあげられるのは、まず今回調査した高岡寺院跡であろう。5は平安時代の瓦窯跡で昭和30年東京大学によって調査されている(註1)。7も同様に窯跡である。調査はなされていないが、窯壁が散布し、布目瓦が出土している。分布調査が進めば、この一帯はさらに多くの窯跡が確認されることは間違いないであろう。

今回のほぼ県内全域にわたる資料採取調査の結果、武蔵国の仏教文化受容はすでに飛鳥時代に遡ることが判明した。当国における最初の寺院造営は比企郡寺谷廃寺である。次に、白鳳時代には入間郡勝呂廃寺、橋羅郡西別府廃寺へと続いたと考えられる。比企郡東松山大谷瓦窯・鳩山赤沼窯跡ではこの時代の瓦を生産しており、供給寺院は未確認であるが存在を示唆している。奈良時代前半には、賀美郡五明・城戸野、榛沢郡馬騎の内、比企郡小用、高麗郡女影・大寺、足立郡大久保領家の7廃寺を数え、同時代後半には、埼玉郡旧盛徳寺、那珂郡大仏廃寺、高麗郡高岡廃寺が創建されている。大宝律令制定後しばらくして、大略各郡単位に寺院が造営された状況をみせている。

(註)は聖天院勝楽寺で、平安時代の瓦が発見されている。高麗氏系図によると、「天平勝宝三辛卯僧勝楽寂、弘仁与其弟子聖雲同納。遺骨。字草創云。勝楽寺。聖雲若光三子也」とある。本寺院跡の発掘の結果、高岡廃寺が高麗氏系図に出てくる勝楽寺で、聖天院からも布目瓦が出土していることから、11世紀代に現在の地に移ったのではないかと考えられている(大護八郎・高橋一夫1978)。(註)は高麗神社である。若光の逝去時に靈廟を建て、高麗明神としてあがめたという。しかし、この高麗神社も古くは白髭神社であったことから、既に新羅明神を祭る白髭神社があり、新羅人の居住が高麗人移住の前であったとする説(金 達寿1975)や、白髭の白は『日本書紀』でク、髭は韓音でナルと読み、百の字源は白でありクと読み、済は韓音でナルと読むことから、白髭=百済と考える説(中島利一郎1959)もある。他にも白髭を古代朝鮮の白髭の神になぞらえ、それを民族的守護神「檀君=ム」に置き換え、高麗系渡来人の始祖信仰から名づけられたとする説(段 熙麟1978)もある。『日本書紀』によると天武13(684)年に百済人僧侶23名が、持統元(687)年に新羅人22名が、持統4(690)年に新羅人12名を武蔵に置いたとする記事が見られる。高麗郡については、遺跡の分布等から『続日本紀』の記事と合致し、高岡廃寺も高麗氏関係者が造営したと考えられる。

(宮 昌之)



1. 高岡寺院跡 2. 井戸神 3. 鎌治屋原 4. 禰石塚 5. 高岡瓦葺跡 6. 瓦出土地 7. 竈跡

図中の遺跡

高麗郡高麗山

大聖歡喜天王



院天聖

高麗王齋來の守護仏



高麗王の墓

●高麗山聖天院

王の歿後、王の持念僧勝樂は王の冥福を祈り菩提を申うため、山を草創し、半途にして歿した。その弟子聖雲(王の弟)は、弘仁(王の孫)と共に勝樂の遺志を負荷して不年にて建立、父若光が故国より齋來した崇信仏聖天尊を本尊とした。聖天院勝樂寺の称号の由来である。

当山の創建は高麗郡が置かれてより約五十年後に当り高麗王若光、王持念僧勝樂、聖雲(王弟)をはじめとする一族の靈は千二百数十年間今も尚当山にて回向され続けている。一方王の遺徳を敬慕し神に祀ったのが当山近くにある高麗神社である。

王の墓は当山境内山門の東池畔を樹閑静の境に在り、五個の砂岩を重ねた多重塔です。こぶる古色を帯びている。この塔は朝鮮様式といわれる素朴なもので鎌倉以前の建立と伝えられている。王廟(墓)東には高麗殿の池、当山山麓には高麗殿の井が現存し往時が憶ばれる。

王の子孫は、代々高麗神社の宮司を勤め、現在五十九代におよんでいるが、同家に古くから伝わる系図の前文に神社創建の由来と併せて次のことが書かれている。

「三十三・勝三三年辛卯の年僧勝樂叔す弘仁の弟子聖雲と高じく遺言を授け一寺を草創す 勝樂寺といふ 聖雲は若元の三子なり」

文化財と寺宝

●銅鐘(国指定重要文化財)

平定澄臣が大工物部季重につくらせ文応二年歲次辛酉(二天一年)三月当山に納めたもので、高さ八二釐、口径四五釐、鐘の上帯に浮雲下帯に唐草模様が鐫られ均齊のとれたものである。

●鐫口(県指定文化財)

応仁二年戊子(二天八年)十一月九日大工淡江満五郎の作で願主衛門五郎が南埼玉郡久伊豆神社に納めたもので縁あつて当山に納められ寺宝となっている。

●高麗王の墓(町指定文化財)

五個の砂岩を重ねた多重塔で高さ二米三〇釐の古色を帯た素朴な塔である。下部に四仏が刻まれてあつたが石質軟かく永い年月の風化により、今は明らかでない。鎌倉期以前の建立、境内が後方に移ったため山門右手に位置している。昭和四十六年御霊家並に周辺を修復





## 高麗王若光の墓

聖天院

### 町指定・史跡

我が国、六史書の一つである続日本紀卷三文  
武天皇大宝三年（七〇三）四月の条に従五位下  
高麗若光に王姓を賜うとある。

『元正天皇靈龜二年（七一六）駿河、甲斐、相  
模、上総、下総、常陸、下野、七国の高麗人一  
千七百九十九人を武蔵国に遷して高麗郡を置  
く。』

郡が設置され郡長となる。荒野を拓き産業を  
興し大いに治績を収め郡民衰惜のうちに波瀾に  
富んだ生涯を終えた。墓は五個の砂岩を重ねた  
多重塔で下部に仏像が刻まれてあったが石質軟  
かく永い年月の風化により刻跡が明らかでない。  
鎌倉時代の建立と推定される。

墓は聖天院山門の右にある。

## 聖天院の山門

聖天院

町指定・建造物

この山門は、六年の歳月をついやして天保三年（一八三二）に建立された。二層楼閣、瓦葺総檜木造で、棟梁は北足立郡立村の立川氏と高麗郡小瀬戸村の安藤直蔵である。建築様式共に稀にみる優美さと重厚さをそなえ楼閣の山号額は江戸の人中村入道景蓮の筆になり、天上画は龍、鳳凰共に江戸の画師南沢が画く。山門の左右に木彫の風神、雷神を祀り、階上に大日如来、七観音、十六羅漢が配祀されている。



# 高麗神社

こまじんじや

—日高町新堀八三三(新堀宇大宮)

## 歴史

当社にかかわる高麗の国は、夫余族一派の高麗人が紀元前に建てた朝鮮半島北部及び中国東北部にまたがる高句麗のことである。高麗人は、豪勇で騎射に長け、高度な技術を持っていたと伝えられ、その技術が我が国の文化発展に貢献したところは大きい。

高句麗文化は、我が国において、まず、越前若狭湾から近江に入り、次第に東進して武蔵野方面まで広がっていったものと思われる。この間、各地に定着した高麗人は、各々の住居地で祖国の神を祀り、社を建立していったと考えられる。

天智天皇七年(六六八)、繁栄を続けた高句麗は、唐、新羅の連合軍に滅ぼされ、長く友好関係にあった関係から高句麗の王族や重臣が我が国に亡命した。この中、かつて貢進使の副使として来朝したことのある若光王の姿が見られた。若光王は、この困難によく耐えて祖国を失った民を導いた功により、『續日本紀』大宝三年(七〇三)に「従五位下高麗若光賜王姓」とあるように王の姓を賜っている。

更に、霊龜二年(七一六)には「以武蔵河内斐指模上総下総常陸下野七国高麗人千七百九十九人遷于武蔵国一置高麗郡焉」とあるように、初めて高麗人の「高麗郡」が設置される。高麗郡が置かれたのは、当地がいまだ開発の行き届かぬ地であったためと高麗人の高度な技術を必要としたためであろう。また、このころは、百濟・新羅の渡来人移

住も行われ、耕地の開墾はもちろん、鋳業・織物業・窯業などの開発も行われる。鋳業については秩父市黒谷の和銅採掘跡があり、織物業では、和銅六年(七一三)から武蔵国は布の外、絁を織って朝廷へ納めることと定められたことから養蚕が広く行われたことがうかがえる。窯業については、寄居町末野や鳩山町須江に多数の窯跡があり、布目瓦の製造が認められている。この中において、高麗人の活躍は目ざましく、武蔵介、武蔵守となったものも数名いる。中でも、高麗一族出身の福信は、朝廷に出仕し、造宮卿の時に皇居の揚梅宮を造営し、従三位まで昇進、武蔵守も歴任して宝龜一〇年(七七九)には高倉朝臣の姓を賜い、以来当社は出世の神の信仰がある。このように、武蔵野の開発は、渡来人の努力をぬきに考えることはできない。

当社の祭神については、現在、若光王・猿田彦命・武内宿禰の三柱とされているが、これらの祭神は、当社の創建時から祀られていたものかどうか疑問が残る。祭神は、本来高麗人が祀っていた神を考へねばならないであろう。まず始めに祖国高句麗で祀っていた神であるが、これは、『魏志』の高句麗伝が参考となる。これには、「其俗節、食好治宮室於所居之左右立大屋祭鬼神又祀靈星社稷」とあり、住居地の左右に祖先神・土地神・穀物神などを祀ると載せている。我が国に移住した若光王及び高麗人が、当初から我が国固有の

神々を祀ることは古昔に考えられず、おそらく自らが信仰して来た  
祖國の神を祀ったものと思われる。

このため、初めは当社においても祖國同様の祭祀が若光王の手で行  
われ、一族のものもこれに倣ったものであろう。やがて、若光王が亡  
くなると、部民は祖國の神を祀ったが、現在の社殿の後の山に雪廟  
を建て、ここに若光王の御霊を併せ祀り、高麗明神（白髭明神）と称  
した。社の形態を整えたのもこのころで、猿田彦命及び武内宿禰に  
ついては後世付加された神であろう。猿田彦命は、これを白髭明神と  
する説があり、渡来神ということから若光王と習合したのではないか  
と思われ、武内宿禰は時流により祀られたものであろう。また、現  
在、武蔵野各地に分布する白髭社は、各地に居住した高麗人が若光王  
を白髭明神として敬慕し、当社から分祀したものといわれ、高麗郡が  
繁栄をみるころには、郡内二一社を数えたという。

若光王没後の当社祀職は、代々高麗家が継承し、現在の高麗彦雄で  
五九代となる。主な事跡を祀職中心に述べると次のごとくになる。

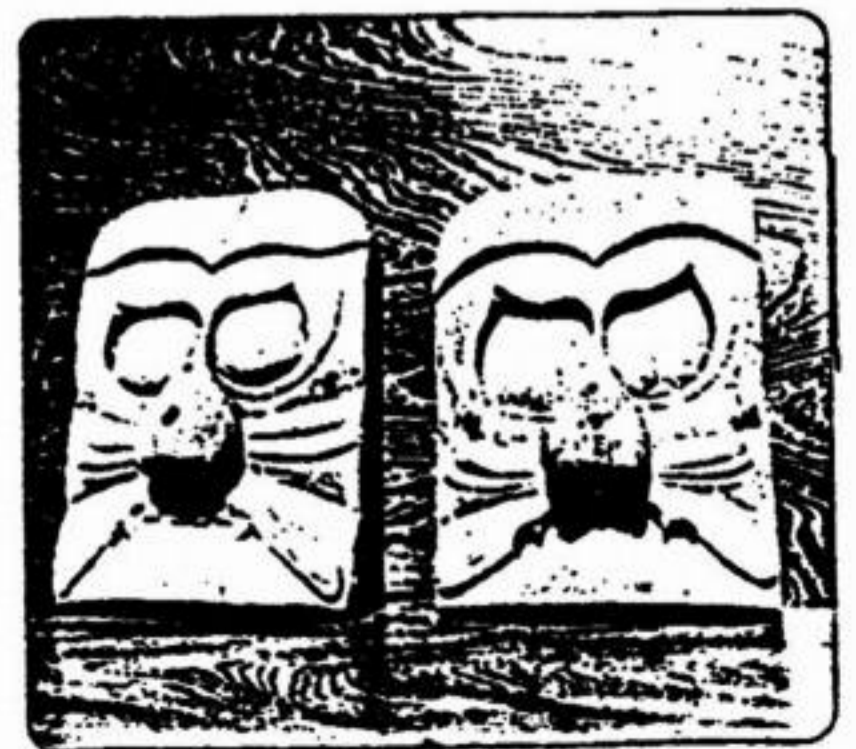
三代弘仁は、高句麗の高僧勝楽が天平勝宝三年（七五二）に寂すると  
弟子聖雲とともに勝楽寺を建立して、遺骨を納め、高句麗伝来の靈場  
となし、若光王の墓所もここに設ける。一三代寛徳は康治二年（一一  
四三）、大峰に修行し、以来高麗家は、本山派修験で入東・多摩・高  
麗三郡の年行事職大先達を務める猿井親音堂配下となり、神仏分離ま  
で修験として活躍した。天正一八年（一五九〇）には、大宮領三石を  
安堵される。神仏分離により、五七代大記は、復飾して祠掌となる。

これら諸記録は高麗氏系図にあり、名家たることを物語っている。



高麗神社・宝物

獅子頭



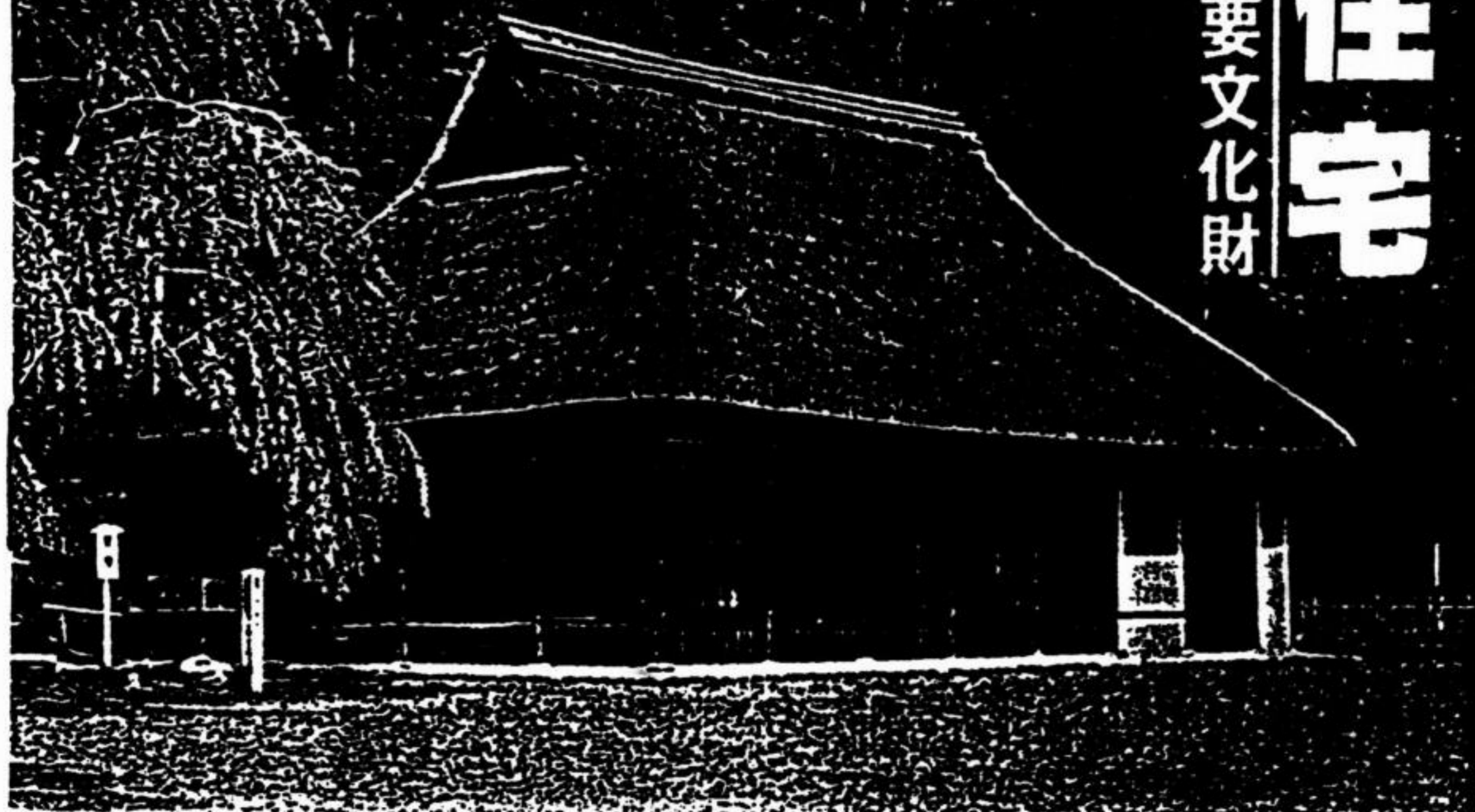
社殿への入り口に掲げられた神社の額に注意すると、高  
麗の二字の間に小さく「句」の字が入っており、高句麗神  
社と読める。この額は明治の末に、韓国人趙重應が書いた  
もので、彼は「高麗」と「高句麗」は歴史上全く別である  
として、この字を入れたという。自國の歴史に対する正確  
な認識を主張した彼が、一方で、日韓併合をすすめた李完  
用内閣の關係（法相）であったことを見落とすわけにはい  
かない。境内に掲げられた参拝者名の中には、日本の朝鮮  
統治時代に辣腕をふるった朝鮮總督・齋藤實や南次郎、小  
磯国昭その他の高官名も見えるが、彼らはこの神前にぬか  
ずき何を祈り、何を誓ったのであろうか。



陽たまりの里  
歴史の面影をとどめる

# 高麗家

## 重要文化財 住宅



●そこで、この住宅の歴史にふれておくと、17世紀の中頃までさかのぼることが出来るらしい。この柱や梁（はり）それに古文書などから推定されるのだが、1600年代といえは、ざっと300年前。徳川家光・家綱公の時代であろうか。——ともかくこれが重文指定の一要因だろう。

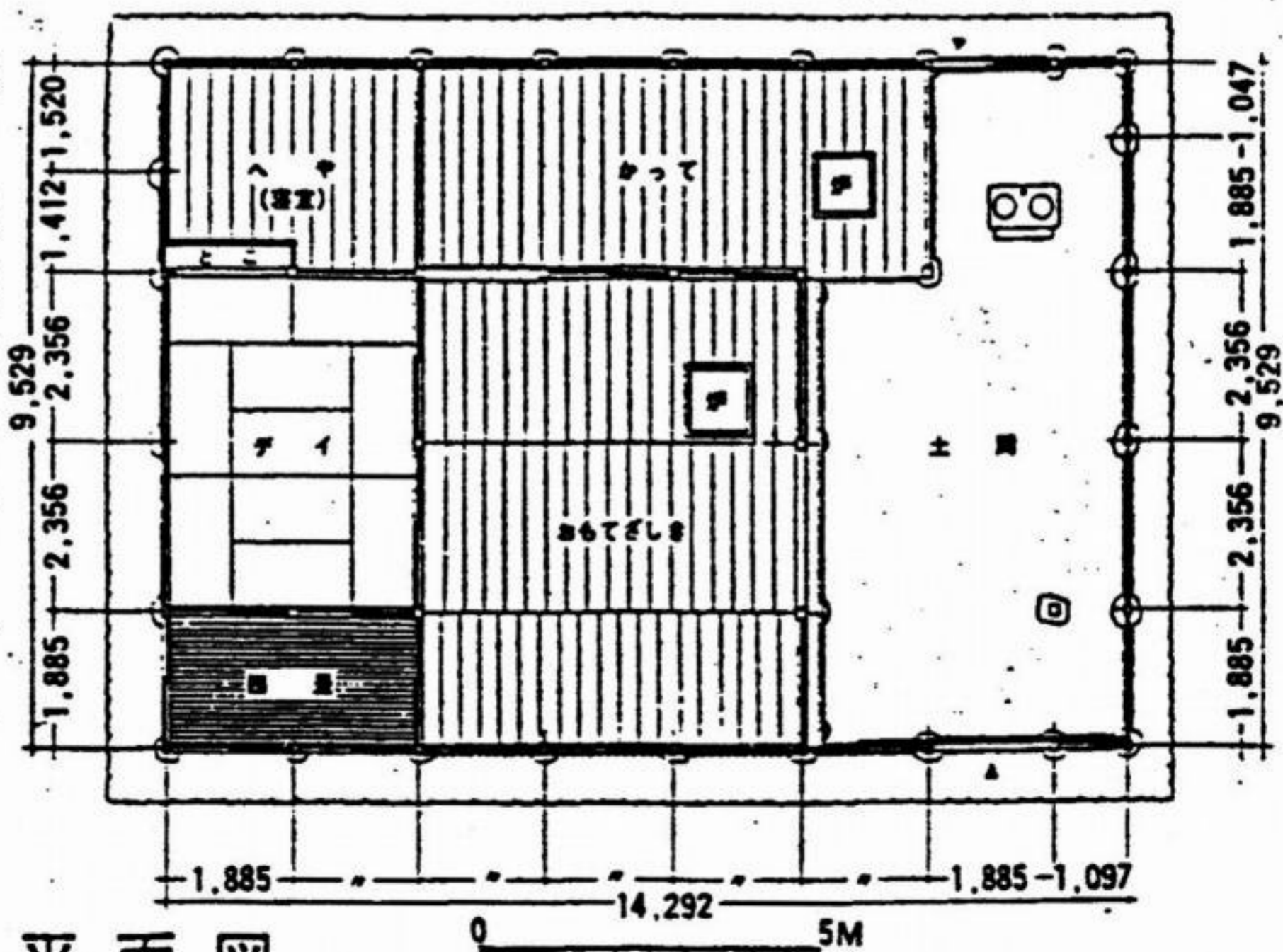
●現在の住宅は、昭和52年老朽化がはげしいため、柱に残る古い穴をたどって復元したもの。もちろん主要な用材はほとんど昔のまま使用している。

●右手、つまり東側に回り、やや、あとずさって見ると、山を背にした住宅の全景がわかる。

左手の大樹はしだれ桜、裏手一帯は竹が群生し、右手の山の中腹には、2本の桜の老

樹があって、春夏秋冬、晴雨にかかわらず、一幅の絵をみるような味わいがある。

高麗神社が出世神社とよばれているせいかこの桜を出世桜とよぶヤングも多いとか…。春は正に絶景である。



平面図



# 巾着田

埼玉県日高市

きんちゃくだ

日高市観光協会

1月  
JAN

2月  
FEB

3月  
MAR

4月  
APR

5月  
MAY

6月  
JUN

7月  
JUL

8月  
AUG

9月  
SEP

10月  
OCT

11月  
NOV

12月  
DEC



- イチリンソウ (3月下旬~4月中旬)
- サクラ (4月上旬)
- 菜の花 (4月上旬~下旬)

# 四季の 巾着田 風景

- |      |          |     |
|------|----------|-----|
| 曼珠沙華 | アジサイ     | ソバ  |
| コスモス | キツネノカミソリ | ハス  |
| サクラ  | イチリンソウ   | 菜の花 |

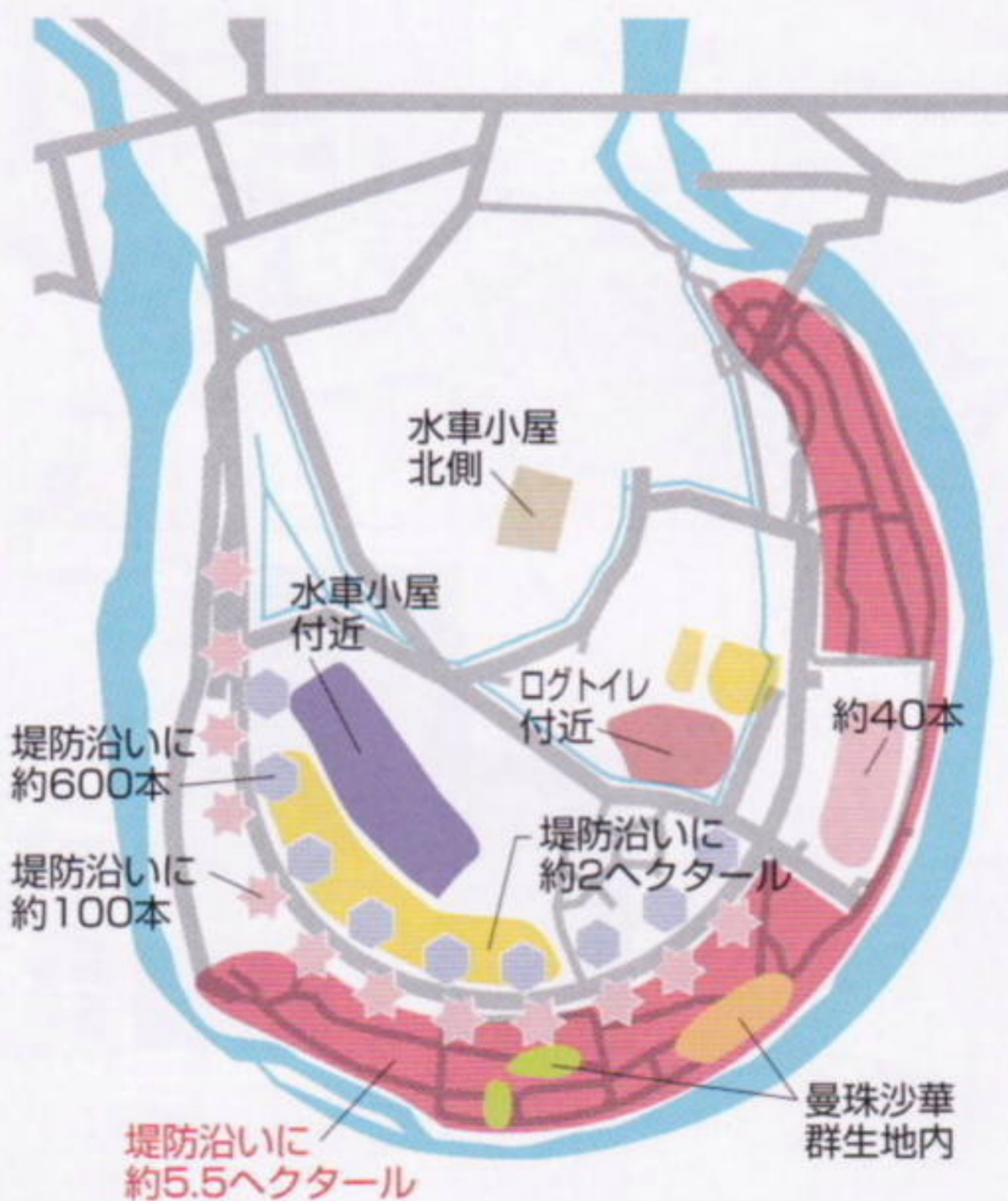
- アジサイ (6月中旬~7月上旬)

- ハス (7月上旬~8月中旬)

- キツネノカミソリ (8月上旬~下旬)

- 曼珠沙華 (9月中旬~下旬)
- コスモス (9月下旬~10月中旬)
- ソバ (9月下旬~10月中旬)

- 曼珠沙華の葉 (11月下旬~2月下旬)





巾着田曼珠沙華公園

散策マップ

SANSAKU MAP

- 有料期間/時間：9月10日(土)～10月10日(月)/午前7時～午後5時  
※開花状況により変更する場合があります。
- 入場料：1人200円/1日  
※中学生以下及び身体障がい者手帳・療養手帳・精神障がい者保健福祉手帳を所持している方は無料。
- 団体割引：20名以上の団体については、合計金額から2割引きます。  
※個別会計はできません。
- 駐車料金(環境保全協力金・1日1台)：普通車：500円、中・大型バス：3,000円、バイク：100円

## 電車等でお越しの方

●西武線利用 池袋駅 → 飯能駅 →

西武線高麗駅  
徒歩15分

●JR線利用

八王子 → 大宮駅 → 川越駅 → 高崎駅

JR高麗川駅  
徒歩45分



至寄居 至高崎

清酒



長澤酒造  
高麗川の川辺に佇む静かな蔵元  
でできた銘酒です。  
☎042-989-0007  
日高市大字北平沢335



はちみつ



なかや商店  
天然ミツバチが高麗郷の大自然  
から集めた健康蜂蜜です。  
☎042-989-1583  
日高市大字栗坪5-9

お問い合わせ  
**巾着田管理**  
☎042-982-02  
☎042-982-05  
所在地 埼玉県  
●巾着田曼珠沙  
●巾着田公式ホ

## お車でお越しの方

- 関越自動車道「鶴ヶ島」インターチェンジを下りて左へ、国道407号線を入間方面へ
- 首都圏中央連絡自動車道(圏央道)「圏央鶴ヶ島」インターチェンジを下りて直進し、圏央鶴ヶ島入口交差点(国道407号線)を左へ
- 首都圏中央連絡自動車道(圏央道)「狭山・日高」インターチェンジを下りて左へ、一つ目の交差点(県道262号線)を右へ

### 醤油



**弓削多醤油**  
全国でもめずらしい熱殺菌なしの生醤油が手に入る健康有機醤油の蔵元です。  
☎042-985-8011  
日高市大字田波目804-1

至坂戸市街

### 乳製品



**加藤牧場**  
牧場でとれた新鮮な牛乳を使った乳製品のお店です。  
☎042-984-1414  
日高市大字旭ヶ丘572

### 和菓子



**亀屋**  
地元特産物の栗を加工したおいしい銘菓です。  
☎042-989-0129  
日高市大字原宿45-1

### 豚肉



**サイボクハム**  
世界が認めた特選素材。究極の味スーパーゴールデンポークをぜひ。  
☎042-985-0869  
日高市大字下大谷沢546

### うどん・栗・お茶



**いるま野農協**  
日高中央直売所  
☎042-989-9161  
日高市大字猿田77-1  
**高萩南農村研修センター直売所**  
☎042-989-9574  
日高市大字中沢189

巾着田

## 事務所

68(9月1日～曼珠沙華終息までの期間は自動音声案内)  
86  
日高市大字高麗本郷125-2  
☎テレホンサービス：0180-994-574(9月1日～9月30日)  
ホームページ：http://www.kinchakuda.com

